

令和4年12月15日

能美市議会

議長 田中 策次郎 様

広報広聴特別委員会

委員長 卯野 修三

### 能美市広報広聴特別委員会行政視察報告書

令和4年11月1日から2日にかけて、長野県飯田市、新潟県上越市へ行政視察研修のため出張したのでその概要を報告する。

1. 視察日 令和4年11月1日（火）～2日（水）
2. 目的 ①市民に開かれた議会を目指し、意見交換会における広報広聴特別委員会の役割、進め方や 回答方法など具体的に学び、今後に生かしていく。  
②議会広報紙のフルカラー化に向けて、編集及び企画について学ぶ。
3. 視察先 長野県飯田市議会、新潟県上越市議会
4. 参加者 委員長：卯野 修三  
副委員長：近藤 啓子  
委員：山下 毅、澤田 貞、中村 純子  
荒井 昌宏、中野 廣志  
随 行：議会事務局議事調査課書記 吉本 公平
5. 今回の視察のねらい  
① 能美市議会は、今年度広報特別委員会から広報広聴特別委員会へと「広聴」の役割を強化する委員会へと変更となった。その中で7年ぶりに一般市民を対象とした「議会報告会&意見交換会」を開催し、開かれた議会へと踏み出した。議会全体での合意形成、市民から出された意見の返し方など先進地の取り組みから学び今後生かしていく。

② 議会広報紙の全面カラー化をめざし紙面の改善・検討のヒントを探る。

## 6. 自治体の取組

### (1) 議会報告会及び意見交換会の取り組みについて

#### \* 飯田市議会の取り組み

25年前から議会報告会を重ね平成25年に広聴機能の充実として広報広聴委員会とした。

予算決算委員会を通しての政策提言、広聴活動からの政策提言を行い議会全体として市民に開かれた活動を推進し、広報広聴委員会としての役割を高めてきています。

これは継続した議会改革の推進によって深められてきており、今年度から議会改革第2段階として「地方議会評価モデル」を導入し、どういう議会にするか、どうすれば市民の負託にこたえることができるか議論を開始し議員の議会に対する認識を高めている。

- ・市民との意見交換会は2年間で1サイクルにし、議会全体で取り組むことを組織的にも保障し、企画準備会がもたれている。10月に意見交換会を行う場合に5月には企画準備会を開催し、企画準備会は広報広聴委員と各常任委員会委員長が参加し、議長・副議長がオブザーバー参加し、スムーズな取り組みを行っている。このことによって出された意見を各常任委員会が把握し、必要な検討を加え、政策提言や翌年の報告会で報告するシステムが作られている。
- ・参加者は、地域に「まちづくり委員会」が作られており、連携して取り組まれている。
- ・当日出された意見には、基本的には常任委員会委員長が答える。
- ・出された意見に対しては、ホームページに掲載されますが、当該年度（12月）に一部を報告し、年度末（3月）には全面的な報告を行う。

#### \*上越市議会の取り組み

平成 26 年から、年 2 回の議会報告会を開催している。5 月と 11 月に議会報告と意見交換を行っているが、参加者の固定化（男性が多いこと）が課題となり、平成 28 年から様々な層の方（女性会や若者など）との意見交換会も開始するようになった。

平成 30 年からは年 2 回の議会報告会に追加し、各常任委員会でテーマを決め独自に意見交換会行うこととした。

また小グループによるディスカッションやホワイトボードミーティングで意見の見える化への工夫を行っている。

- ・女性団体との意見交換会開催後の選挙において 7 名の女性議員が誕生するなど興味深い内容でした。
- ・地域に 28 の自治区があり、その協議委員は選挙で選ばれ、全体で年間 2 億円の予算が配分されている。その点からも議会との意見交換が活発にされている。
- ・出された意見は、2 週間で事務局が意見をまとめ、広報広聴委員会が確認し、その後課題調整会議がもたれる。課題調整会議のメンバーは、正副議長、議運委員長、各常任委員長、特別委員会委員長、広報広聴委員会のメンバーである。
- ・課題調整会議で議会として調査研究や政策提言が必要な意見と行政に伝えるべき意見に区分する。各常任委員会で調査研究するのは、委員会での調査結果を公表する。また、行政に伝えたものは、回答をもらい、すべてホームページで公表する。同じ意見も全て載せる。

#### (2) 議会広報紙について

飯田市の議会だよりでは、各常任委員会・特別委員会の Q & A 形式はとても具体的でわかりやすく各委員会ごとの担当内容も伝わり非常に良い。QR コードの活用も多く整理されている。また議員紹介のページや各種団体へのインタビューを設けるなど、工夫がされていた。

全体 12 ページの中に詰め込まれていて読みづらく感じました。

上越市の議会だよりでは、紙面構成では特集記事の掲載や質疑の掲載も入れ工夫している。

工夫ポイントとして、インパクトのある表紙、読みたくなるようなデザイン、難しい内容をわかりやすく、質疑と答弁を2行でまとめる工夫をしている。

1 ページに3人の質問概要を載せているが文字も大きく読みやすい。問と答えが一問一答になっているので内容が伝わりやすい。

## 7. 所感

議会報告及び意見交換会への取り組みは両市とも長い歴史を持って継続発展させてきています。

共通している点は、①工夫改善しながら継続し発展させていること。②議会全体で取り組むために、議会改革の議論が活発にされ、その中で広報広聴の役割を明確に位置付け、企画準備会や課題調整会議が正副議長、各常任委員長も一緒に参加し取り組まれていること。③年間スケジュールが生まれ、必要な会議設定もし、政策提言につなげるシステムの構築がされていることがあげられる。

市民からの意見は、意見だけでなく今後は回答も公表掲載することと、一方で常任委員会での所管事務テーマにするなどとりあげ、研究・検討による報告をすることによって、市民とも好循環サイクルで、より開かれた議会へと発展させることができると感じます。

能美市議会でも一步を踏み出したところではありますが、何よりも継続させること、議会全体で取り組むために、飯田市のような企画準備会（仮）を開催し、議長、副議長、各常任委員長が参加し、企画・運営に責任を持っていく体制、システムを作り上げることが重要であると感じます。

この中から政策提言へと発展させることができれば、市民に開かれた議会へと大きく発展することができると思います。

また、より多くの方に手にとってもらえる議会広報紙にするために、今後フルカラーになる利点を生かし、一目で中身がわかる工夫が必要となる。その点では上越市の紙面から大いに学ぶことができる。文字は大きくし伝えたいことを明確にすることや議会の審議の様子も伝わる紙面の改善も求められる。

能美市の議会がより開かれた議会となるように、議会広報紙やQRコード、Uチューブなどの充実と合わせより身近な議会へと広報活動を推進していくことが求められていると感じます。